

アグリワークポイント AGRIWORKPOINT



農業経営支援課 山村

米

米づくりは苗半作!!

播種時のポイント

- ① 『宇部粒状培土』を使用しましょう。
- ② 播種前にたっぷりかん水しましょう。
- ③ 適正な播種量を守りましょう。
- ※1箱当たりの播種量は水稻栽培暦に記載してあります。

- ④ 機械を使いできるだけ均一に播種しましょう。
- ⑤ 覆土は種子が完全に隠れるまでかけて、その後のかん水は行わない様にしましょう。

生育ステージごとの最適管理を行いましょう!

1. 出芽時の温度管理に注意

出芽温度が32℃を超えると高温障害や徒長苗の原因となります。

- ① 高温になりそうな好天日は、早めの換気をし、ハウス・トンネル内の温度上昇を防ぎましょう。

- ② 温度計の設置場所は育苗箱のふちには置かず、必ず床土の温度を測るようにしましょう。

2. 適切な水管理

- ① 緑化期(1.5葉期)までは1日1回午前中の9時以降にかん水を行いましょ。

- ② 硬化期(1.5葉期以降)は、午前1回・午後1回(15時前)行いましょ。

※夕方のかん水は、温度低下や夜間の呼吸を妨げるので避けましょ。

※曇りの日や雨の日は極力かん水を控えましょ。

育苗中の病気対策

種子及び資材消毒の徹底、播種時または発芽後タチガレエース液剤散布(予防剤なので症状が出る前に使用してください)。

土壌改良資材を施用しましょ(高温対策)

ケイ酸質資材を施用することで、登熟が向上し粒太りが良くなります。また、発根が良くなり、気孔の動きも活発になるので、日中の蒸散量が高くなり、イネ周辺の温度を下げる効果もあります。

- ・ケイ酸加里プレミア34 (60kg/10a)
- ・とれ太郎(80kg/10a)
- ・オイスターミネラル(100kg/10a)